



議会だより

なよろ

平成 30 年
第 1 回定例会

第 48 号

平成 30 年 5 月 1 日
発行



目次

特集！名寄産業高校生徒さんへインタビュー 2～3

定例会で決まったこと	4
議決結果・意見書	5
予算審査特別委員会の概要・総括質疑	6～7
一般質問に 14 人	8～14
議会改革調査特別委員会委員長報告・議員協議会	15
議会報告会開催案内	16
各委員会活動報告	17～19
きぼう・編集後記	20

題字 名寄東中学校 宮本 柊佑(みやもと しゅうすけ)さん

にインタビュー!!

平成30年1月26日
名寄産業高校生
&
議会報特別委員会

平成30年1月26日に議会報特別委員会メンバーで名寄産業高校へお邪魔し、生徒会と選挙管理委員会の3年生にインタビューをしてきました。

川村委員長



18歳に選挙権が与えられました。皆さんどう感じていますか。

松本令也さん



18歳でも社会人になっている人もいますので、18歳から選挙権が与えられるのは良いことだと思います。

山北 葵さん



選挙権が18歳に与えられるのは良いことだけど、何もわからないで何でもいいと投票する人がいるかもしれない。しっかりと情報を得てから投票できるようにしたほうがよいと思いました。

東川委員



選挙に行ったことがある人は、立候補者や政党の情報をどのように知りましたか。

佐々木灯里さん



現代社会の授業で、選挙権が18歳に引き下げられて選挙についての授業に切り替わり、名寄市での情報も教えてもらいました。

野田委員



お父さんやお母さんと選挙の話はしましたか。

佐々木灯里さん



親と一緒にニュースを見たり、政党について、よく分からなかったので教えてもらいました。

高野委員



友達や先輩、後輩とは選挙の話はしましたか。

小川喜央さん



選挙についての授業もあったので、友達とは多少話しました。

特集

名寄産業高校の生徒さん

塩田副委員長



これから行われる選挙では投票に行きたいと
思いますか。

上島瑠奈さん



前回の選挙には行きました。選挙にはこれからも行きたいと
考えています。自分が投票していないと意見も言えないので、
自分の考えを持ち、しっかりと投票したいです。

狩野朋樹さん



昔、家族で投票所に行ったときに興味をもったので、選挙が
あれば投票したいです。

山崎委員



議員に聞きたいことはありますか。

佐々木灯里さん



建築システム科では名寄市のまちづくりについて取り組んで
います。名寄市の商店街について、たとえば高校生が気軽に
集まれる場所があるといいなという意見もあります。このよ
うな意見は誰にどのように提案すればよいですか。

川村委員長



名寄市には市政に対する要望や疑問などを市長と懇談できる市長室
開放事業があります。また、私たち議員も18名いますので、議員に
お話ししていただくことで、議会の中で市政に反映させていくこと
ができます。今後も若い皆さんの意見をたくさん聞かせていただき
たいと思います。

インタビューを終えて

平成28年選挙権年齢が18歳に
引き下げられました。
選挙権が付与される高校生は
どのように感じているのか、お
話を聞きました。

平成29年10月の衆議院議員総
選挙で投票ができるようになった
生徒さんもいらっしゃるしま
した。18歳に選挙権が与えられ
ことは皆さん良いことと受け止
めていましたが、立候補者の主
張や政党の情報が得られにくい
ことを不安に思う生徒さんもい
ました。

「25歳になると選挙に立候補
することもできます。選挙に出
てみたいと思いますか？」の質
問には皆さん「・・・」。

議員になつて名寄市を暮らし
やすいまちにしたい。若い方が
そんな希望を持てるような議員
活動をしなければならぬと感
じました。

また、私たちの高校時代と比
べると今の高校生は現実を見て、
自分の意見をしっかりと伝える
ことができていることに感心し
ました。

名寄産業高校の生徒さん、先
生方ご協力ありがとうございました。

平成30年 第1回定例会 2月26日～3月27日

名寄市第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画を原案可決

平成30年第1回定例会は、2月26日から3月27日までの30日間開かれました。

3月27日には「名寄市第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画を定めることについて」の集中審議が行われました。

議案審議では、条例の制定・改正等13件、補正予算12件、予算案10件、その他1件、意見書案5件、報告3件を審議しました。このうち新年度予算案については全議員による平成30年度予算審査特別委員会を設置して審議しました。また、一般質問では14人の議員が市政について質問しました。

「市民みんなが安心して暮らせるまちづくり」を目指して

名寄市第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画について集中審議が行われました。市民アンケート、ワークショップ、福祉懇談会など市民の意見をはじめ、策定作業を進めた名寄市保健医療福祉推進協議会からの答申を基に計画案がまとめられました。議員からは生活援助サービスの回数制限、計画策定に関わって利用者や市民に対する周知、地域包括ケアシステムの推進と進捗管理などについての質疑が行われました。加藤市長からは「地域包括ケアの推進はまちづくりそのものであり、地域全体で医療、福祉、住まいの確保などをしっかりと支え、高齢者がいつまでも元気で安全に過ごせ、生きがいをもって暮らせるサービスの提供が必要。市民ひとりひとりが住み続けられるまちづくりを進めるため、しっかりと汗をかいていく。」と答弁があり、審議の結果、原案のとおり可決しました。

条例の制定及び一部改正等

名寄市介護保険条例の一部改正

名寄市第7期介護保険事業計画を策定し、平成30年度から平成32年度までにおける第1号被保険者の介護保険料について、介護保険法の規定に基づき介護保険料額を定めました。第6期計画に引き続き、国の基準9段階を10段階にすることに、所得に応じた保険料を負担してもらうことで、基準額の上昇を最小限に抑え、低所得者層への負担軽減を図りました。

基準となる第5段階の基準額月額額は5225円としました。

主な補正予算

総合計画策定・推進事業費
名寄市総合計画(第2次)中期計画策定に向けたアンケート調査を実施するための経費
18万4千円を追加しました。

障害者福祉事業費

地域生活への移行を希望する障がい者の福祉向上を図るためグループホーム整備事業補助金として250万円を追加しました。

議会日誌 1~3月

- 1/18 経済建設常任委員会
- 1/19 議会改革調査特別委員会
議会報特別委員会
- 1/22 市民福祉常任委員会
- 1/30 上川北部市町村議会議長会
1月定例会(音威子府村)
- 2/1 経済建設常任委員会
- 2/5 全国高速自動車道市議会協議会(東京都)

- 2/7 北方領土返還要求全国大会(東京都)
- 2/13 全協議会総会(東京都)
- 2/15 全国市議会議長会建設運輸委員会(東京都)
- 2/16 議会改革調査特別委員会
- 2/19 総務文教常任委員会
- 2/20 経済建設常任委員会
- 2/21 各会派代表者会議
市民福祉常任委員会
議会運営委員会
議会報特別

- 2/26 平成30年第1回定例会開会
議員協議会
- 3/5 議会改革調査特別委員会
- 3/9 市民福祉常任委員会
- 3/13 経済建設常任委員会
- 3/15 議会運営委員会
- 3/16 議会報特別委員会
- 3/22 市民福祉常任委員会
平成30年度予算審査特別委員会(~27日)
- 3/26 議会運営委員会
- 3/27 定例会閉会

平成 30 年第 1 回定例会議決結果

議案番号	件名	結果
議案第 1 号	名寄市指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定について	原案可決
議案第 2 号	名寄市個人情報保護条例の一部改正について	原案可決
議案第 3 号	名寄市介護保険条例の一部改正について	原案可決
議案第 4 号	名寄市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部改正について	原案可決
議案第 5 号	名寄市営住宅管理条例の一部改正について	原案可決
議案第 6 号	名寄市企業立地促進条例の一部改正について	原案可決
議案第 7 号	名寄市水道事業の設置等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第 8 号	名寄市肉牛繁殖センター条例の廃止について	原案可決
議案第 9 号	名寄市第 7 期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画を定めることについて	原案可決
議案第 10 号	平成 29 年度名寄市一般会計補正予算（第 5 号）	原案可決
議案第 11 号	平成 29 年度名寄市国民健康保険特別会計補正予算（第 3 号）	原案可決
議案第 12 号	平成 29 年度名寄市介護保険特別会計補正予算（第 2 号）	原案可決
議案第 13 号	平成 29 年度名寄市下水道事業特別会計補正予算（第 2 号）	原案可決
議案第 14 号	平成 29 年度名寄市個別排水処理施設整備事業特別会計補正予算（第 2 号）	原案可決
議案第 15 号	平成 29 年度名寄市後期高齢者医療特別会計補正予算（第 3 号）	原案可決
議案第 16 号	平成 29 年度名寄市病院事業会計補正予算（第 1 号）	原案可決
議案第 17 号	平成 29 年度名寄市水道事業会計補正予算（第 2 号）	原案可決
議案第 18 号	平成 30 年度名寄市一般会計予算	原案可決
議案第 19 号	平成 30 年度名寄市国民健康保険特別会計予算	原案可決
議案第 20 号	平成 30 年度名寄市介護保険特別会計予算	原案可決
議案第 21 号	平成 30 年度名寄市下水道事業特別会計予算	原案可決
議案第 22 号	平成 30 年度名寄市個別排水処理施設整備事業特別会計予算	原案可決
議案第 23 号	平成 30 年度名寄市食肉センター事業特別会計予算	原案可決
議案第 24 号	平成 30 年度名寄市後期高齢者医療特別会計予算	原案可決
議案第 25 号	平成 30 年度名寄市立大学特別会計予算	原案可決
議案第 26 号	平成 30 年度名寄市病院事業会計予算	原案可決
議案第 27 号	平成 30 年度名寄市水道事業会計予算	原案可決
議案第 28 号	平成 29 年度一般会計補正予算（第 6 号）	原案可決
議案第 29 号	平成 29 年度一般会計補正予算（第 7 号）	原案可決
議案第 30 号	名寄市国民健康保険税条例の一部改正について	原案可決
議案第 31 号	名寄市立大学条例及び名寄市立大学の授業料等徴収条例の一部改正について	原案可決
議案第 32 号	名寄市後期高齢者医療に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第 33 号	名寄市国民健康保険条例の一部改正について	原案可決
議案第 34 号	名寄市病院事業の設置等に関する条例の一部改正について	原案可決
議案第 35 号	平成 29 年度一般会計補正予算（第 8 号）	原案可決
議案第 36 号	平成 29 年度名寄市食肉センター事業特別会計補正予算（第 2 号）	原案可決

（賛否の分かれた議案）

（賛成） ×（反対） 欠（欠席） 退（退席）

議案番号	件名	議員名	市民連合・凜風会		市政クラブ		議公	共	新	無	名											
			浜田	山崎	奥村	高野	佐久間	熊谷	佐藤	東川	塩田	山田	佐々木	東	黒井	高橋	川村	大石	川口	野田		
議案第 3 号	名寄市介護保険条例の一部改正について	欠																				
議案第 18 号	平成 30 年度名寄市一般会計予算	欠																				
議案第 19 号	平成 30 年度名寄市国民健康保険特別会計予算	欠																				
議案第 20 号	平成 30 年度名寄市介護保険特別会計予算	欠																				

公（公明） 共（日本共産党） 新（新緑風会） 無（無所属の会） 名（名風会） 議 議長） 議長は表決に加わりません。

第 1 回定例会で次の意見書を提出することに決定しました。

地方公務員法及び地方自治法の一部改正における新たな一般職非常勤職員の処遇改善と雇用安定に関する意見書

生活保護世帯の子どもたちの大学等への進学に関する意見書

「TPP11」に係る十分な情報公開と国内農業対策を求める意見書

洪水回避等を目的とした流量確保のための中小河川の河道掘削の予算の確保を求める意見書

地方路線問題調査特別委員会での徹底した審議を求める意見書

平成30年度予算審査特別委員会

全会計441億8837万9千円を可決(骨格予算)

市の平成30年度予算は、市長選挙を控えていたため骨格予算となりました。一般会計では前年度比4・4%減の211億6612万4千円。市立大学会計を一般会計から特別会計化し、特別会計7会計では98億5593万2千円、企業会計2会計を含む全会計総額は前年度比2・3%増の441億8837万9千円となりました。

2月26日の本会議で全議員により構成する平成30年度予算審査特別委員会(塩田昌彦委員長・佐久間誠副委員長)を設置して予算案が付託され、3月22日、23日、26日、27日の4日間にわたり慎重な審査が行われました。

最初に各会計にかかわる横断的な事項に対する総括質疑を各会派の代表2名によって行い、その後、各会計の審査に入りました。

平成30年度は、名寄市総合計画(第2次)の2年目であり前期計画の最終年度。重点プロジェクトに関連するもの

など様々な施策や事業についての質問がありました。健全な財政運営を求めながらも、子育て支援や高齢者・生活困窮者への支援の充実、道路整備についてなど市民生活に直結する施策や、人材育成、産業振興策、教育環境の向上についてなど幅広い分野にわたり、将来に向けた長期的な考え方を問うなど、延べ113件の質疑が行われました。

全会計について審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定し、3月27日の本会議で報告しました。



塩田昌彦委員長(左)と佐久間誠副委員長(右)

予算審査特別委員会での質疑の一部を掲載します

国際交流事業費

- 問** 台湾交流事業の今後の考え方は
- 答** 台湾との交流も5年目を迎え、本市独自の交流事業も定着してきた。人的交流を継続し、経済的交流に発展するよう取り組みたい。交流事業は競技種目を野球に限定せずに取り組みを続ける。台湾からの教育旅行の受け入れなど交流の拡大を進める。

健康マイレージ事業費

- 問** なよる健康マイレージへの参加者の増加と達成者を増やす取り組みは。
- 答** 若い世代の参加者が少ない。市立大学の健康診断や市が主催するスポーツ事業でも周知する。申し込み方法など参加しやすい手続方法を検討していきたい。

乳幼児等医療給付事業費

- 問** 経済的な支援として対象年齢の拡大の考えは。
- 答** 現状は未就学児の外来と小学生までの入院について給付対象としている。限られた予算の中で、単年度ではなく継続した子育て支援に取り組みよう医療給付事業だけでなく子ども子育て支援施策全体を考えていく。

望湖台自然公園管理運営事業費

- 問** バンガロー解体後の公園整備の考え方は。
- 答** 解体後は芝を整備してキャンプ場、オートキャンプ場利用者の憩いの場として使用予定。望湖台自然公園全体の整備等の検討が必要な時期であり、教育的な活用など含め考えたい。

予算審査特別委員会 総括質疑

予算案に対して、会派を代表して質問します



将来に不安ない財政運営を

市民連合・凜風会

佐藤

靖 委員

地方財政計画との整合性は

問 質疑を明確化するため、一問一答方式で行う。地方財政計画で求められた 臨時財政対策債の抑制 公共施設等の適正管理の推進 まち・ひと・しごと創生事業費の確保について、どう予算案に反映されたのか。

答 臨時財政対策債は、前年度比約1億円減の5億円で計上した。公共施設等の適正管理については、策定する立地適正化計画協議の中で市全体の共通認識として共有化を図りながら進めたい。まち・ひと・しごと創生事業の目標値達成に向け、事業展開する。

財政規律遵守に向け

問 名寄市の財政規律適用初年度となったが、どう周知、反映されたか。

答 遵守は当然であり、会議や研修等を通して共通の認識になるよう努める。

合併以降最高の取り崩し

問 財政規律スタート年としては、基金取り崩し額が多額ではないか。

答 基金繰入額としては、合併以降最も多い額となった。今後においては、特定財源の掘りおこしを始め、歳出の抑制に努めていく必要がある。

松岡参事監の基金見解は

問 財務省から2年間、名寄市に出向している松岡参事監は、地方の基金についてどういう見解をお持ちか。

答 一般論として、自治体の基金については、その目的や必要額等が適切に精査され、説明がなされるべきものと考えている。財政の硬直化が深刻

経常収支比率は、ここ数年

問 経常収支比率は、ここ数年上昇傾向にあるが、名寄市の29年度の見込みは。

答 歳入では普通交付税の減少、歳出では主に公債費の増により、90%を超える数値になると想定している。

新規事業から



平成30年度予算について

市政クラブ

東

千春 委員

都市計画マスタープランと立地適正化計画について

問 人口の維持、公共施設の計画的配置とコンパクトシティ化など20年後の名寄市を計画する。

答 地域公共交通網形成計画の進め方について。

人口動態やアンケート

答 によりニーズを把握し12月をめどに整理したい。

新たな運営や会計について

問 大学の特別会計化と今後の更なる見える化について。

答 予算規模が大きくなり28年ぶりの特別会計化を行った。将来構想に沿い情報公開と見える化を図りたい。

市立病院の公営企業法

問 市立病院の公営企業法全部適用について。

答 院長が事業管理者となるが市長と緊密な連携を図り、今後も第2次、第3次まで力バーする医療体制を維持する。

地方財政計画から

国の新規対象事業は。

答 河川整備やユニバーサルデザインが対象となり道路にも適応の可能性がある。

問 対象事業の交付税措置は。

答 財政力に応じて交付税措置が30%〜50%に拡充され、名寄市は50%となる。

まち・ひと・しごと創生

問 総合戦略の特征的な予算化は。

答 保育士の人手不足対策に取り組み、冬季スポーツでは動作分析器を導入する。

物品発注について

問 市内発注の考え方は。

答 市内事業者への優先発注を心がけているが専門品や市内発注が難しいと思われるものは市外への発注としている。

型番指定の考えは。

問 教材など後継機種やスペースの関係もある、型番は選定理由書を提出し同等品が無いと調べる。

動作分析器：衛星測位システム（GPS）やセンサーにより、選手の心拍数や動きの速さを測定する機器

一般質問

市政全般について考え方や方針などを市長等に質問します



研修と行財政評価の対応は

市政クラブ 東川孝義 議員

若手職員の研修充実を

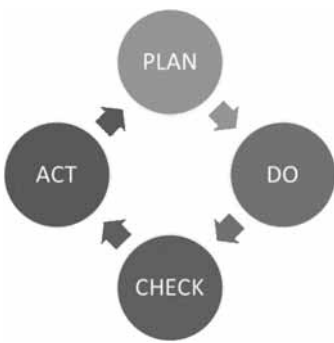
問 勤続10年未満の職員割合が、平成29年度では、全体の39・7%を占め、5年前に比べると15%増となっている。職員の若返りが進む中で、研修の実績と職員の自主研究グループの取り組みは。

答 教育研修については、一般派遣研修と特別研修を各々の該当職場に対して実施している。しかし、職員の人材育成は、研修だけでは達成できない面も多々ある。日常の職場内で互いに教え合う中で、知識や情報を共有化し、組織全体の認識を高めていく。自主研究の活用については、対象となる研修のハードルが高いとの意見もあり、見直しも検討し、活用に向けて制度を継続したい。

問 次の計画を意識した対応は、行財政運営の評価方法について、従来のローリング作業と現状作業の変更点とP

DC Aサイクルを意識した取り組みの具体的対応は。

答 総合計画の推進・進捗管理を行うため、例年、施策・事務事業の成果や目標達成度の点検評価を行い、次年度予算編成につなげている。今年度から調書の様式を改め、事業推進の目的整理や数値目標の設定評価をより重視したものとした。総合計画を中心とした業務体系においてP D C Aサイクルを位置づけ、職員が業務に取り組み中で理解を深めていく体制作りを進める。**他の質問**・工事施工の評価に改修・解体での制度導入は。



P D C Aサイクルで目標と目的の違いを明確に



ふみ込んだ定住対策を

市民連合・凜風会 山崎真由美 議員

住み続けられるまちに

問 少子高齢化が進み、人口減にストップがかからない状況において、高齢者宅を中心とした間口除雪の対応や、子どもの医療費助成拡大（小学生までの入院・通院無料化）並びに、公共交通の確保は、安心して名寄市に住み続けるために必要な定住対策と言える。整備に対する考えは。

答 除排雪は定住にも大きく関わる問題であると認識している。しかし、相当な事業費が必要な上に、人手不足の状況。限られた予算の中での支援を30年度中に検討する。子どもの医療費無料化については、市立総合病院小児科の24時間体制を維持することが重要。公共交通確保については、地域公共交通活性化協議会と連携し、地域特性や利用者ニーズに応じた地域公共交通網形成計画を策定していく。

まちづくりに道の駅活用を

問 地の利を生かした観光農園、物流の拠点としての利用、公衆浴場の併設など、道の駅を活用した街づくりの考えは。

答 市内唯一の公衆浴場に経営支援を行っており、新たな設置は困難。物流の拠点化については、昨年名寄商工会議所が中心となり、名寄地域連携物流システム検討協議会を発足。物流の中継地点として道の駅も検討されるものと考えている。



南の玄関口 道の駅「もち米の里 なよろ」

一般質問

質問・答弁の原稿は質問者本人がまとめたものです



市道の排水整備の向上を

無所属の会 川口京二 議員

市道の排水整備について

問 雪解け時や雨天時に玄関先まで水がたまっている箇所を見かけるが道路排水整備の現状を伺う。

答 未整備道路においては市民の皆様にご迷惑をかけている。平成19年度に不具合箇所について現地調査を行った結果90路線を選定した。調査後から10年間で39路線の部分的な排水整備を終えている。地域バランスを考慮しながら特に支障をきたしている路線から優先的に排水整備や部分的な排水処理を行っている。28年度は2路線の整備工事と1町内会の雨水桝設置工事を実施した。29年度は3路線の整備工事と1路線の側溝土砂除去工事を実施した。防塵道路は凍上等の影響を受けやすいため、状況の悪い箇所が増え、状況の悪い箇所が増え、把握する作業をすすめる。

今後の整備の計画は。

問 今後、大雨やゲリラ豪雨等の異常気象の増加により、道路排水の解消を望む意見が増えてきている。今後は要望をいただいた路線を最優先して整備できるように計画を進めていきたい。住宅前の水たまり等の部分的な排水解消については、引き続き修繕費を活用しながら補修を行っていく。

答 昨今、大雨やゲリラ豪雨等の異常気象の増加により、道路排水の解消を望む意見が増えてきている。今後は要望をいただいた路線を最優先して整備できるように計画を進めていきたい。住宅前の水たまり等の部分的な排水解消については、引き続き修繕費を活用しながら補修を行っていく。



水たまり、なんとかしてよ

他の質問・ピヤシリスキー場

について・名寄・土別剣淵間高規格道路について



持続可能な地域福祉の確立を

市民連合・凜風会 佐久間 誠 議員

橋梁点検結果と修繕計画は

問 橋梁点検の実施状況と通行規制となっている橋梁の架け替え・修繕工事の見通しについて伺う。

答 現在点検を終えている220橋のうち、3月末に結果が判明する131橋を除く89橋の内、健全判定19橋、措置を講ずることが望ましい64橋、早期に措置を講ずべき状態6橋。第三者に影響を及ぼす損傷のある橋梁は無かった。18線橋は重要な路線と認識しているが架け替えには多額の費用がかかる。年度内に詳細な点検結果が出るため、再度方針立てをする。

運転免許返納者に経歴証明書

問 高齢者の免許返納者に対する支援制度確立を。また、買い物支援（通いの場）の取り組みは。地域福祉の優れた実践例をさらに広める方策は。

答 交通安全グッズの配布に合わせ運転経歴証明書の交

付手数料助成制度を新たな事業として取り入れたい。買い物支援は次年度から配置予定の生活支援コーディネーターに町内会、老人クラブを回してもらい、ニーズ把握と実施方法や取り組みの概要詳細を伝えられるよう資料を作成し、事業の拡大を図っていく。

新年度の予算編成について

問 30年度は骨格予算ではあるが、政策的な予算を組む「肉付け予算」に向けての伸びるほどの程度か。

答 事業費ベースで2億〜3億円程度と考えている。

他の質問・公共施設13%削減目標の考え方について



高齢化に対応可能な体系的地域福祉システムの確立を

一般質問



住みやすいまちを目指して

市政クラブ 佐々木 寿 議員

市民の足 公共交通再構築へ

問 便利で安全な市民の移動手段であるべき公共交通を広域的な機能連携を含め再構築すべきだが見解を伺う。

答 名寄市地域公共交通活性化協議会と連携し今後策定予定である「地域公共交通網形成計画」の検討過程において、地域にとつて望ましい公共交通のあり方を明らかにするとともに、各公共交通機関との連携も含め、市内全体を面的にとらえた交通ネットワークの形成、さらには路線の重複や必要性の低い運行を整理するなど、効率性向上の観点も含めた協議を進めていく。

問 改定いじめ防止 新年度から文科省が29年3月に「いじめ防止等のための基本的な方針」を改定した、これに伴い道教委も改定したが本市の対応について伺う。

答 本市は今後改定した「名



便利で期待される市民の足(公共交通)の見直し

寄市いじめ防止基本方針」の内容をまとめたリーフレットを新年度当初に市内の小中学校の保護者へ配布し周知を図る。また「学校いじめ防止基本方針」の点検・見直しを行い、すべての教職員が内容を理解し自校の校内体制の整備を図り、児童生徒や保護者、関係機関に説明し適切な対応をお願いし、いじめ防止等の取り組みの一層の充実を図っていく。

他の質問・まち・ひと・しごと総合戦略について・自殺防止の推進について他

自然を活かしたまちづくり



豊かな名寄市

市民連合・凜風会 高野 美枝子 議員

問 市有林整備の今後の考

え方と豊富な森林を活かした木育の推進について伺う。また、森づくりを担う人材育成機関としての道立林業大学校誘致に向けた取り組みは。

答 市有林の整備については「名寄市森林整備計画」を定め、各種補助制度を有効活用し森林施業に取り組んでおり、総合計画(第2次)が終了する平成38年度には伐採適齢期森林面積を約150haとし管理したいと考えている。「健康の森」「もりの学び舎」での活動が木育の推進につながるものと考えており、散策路等の環境整備に努める。

この地域は森づくりを担う人材育成の拠点並びに実習のフィールドとして適応しており、道立林業大学校誘致に向け、上川北部5市町村等による期成会を設立し、北海道に対し、林業大学校の設置を強

く要望している。

問 高齢者の文化活動について

高齢者大学の活動をさらに活発化するためには、大学同士の連携が必要ではないか。

答 合同の芸能発表などで交流を深めているが、今後それぞれの大学で開催している公開講座や大学祭の相互PRを強化し、交流事業について検討を進めたい。

他の質問

・労働者が働きやすい環境づくりについて・地方自治体における健全な財政運営について



健康の森で「木育」を！(森林学習展示館:もりの学び舎)

一般質問



安心して暮らせるまちに

市民連合・凜風会 佐藤靖 議員

定住対策のあり方を問う

問 市が公表する各種統計資料によると、合併後の事業所数、商店数、商品販売額、農家数などが大きく減少している。大型社会資本整備も結果的に人口流出の歯止め、市内経済の活性化にもつながっていないが、定住対策の見地を含めこの現状をどう受け止めているか。また、働く場における課題をどう受け止めているのか。

答 定住対策については、これまで様々な施策を推進してきたが、人口流出に対して十分効果が発揮されていない現状にある。総合戦略の点検や見直しを含め、定住施策の取り組みを進める。また、働く場における課題については、若者の離職が目立つことから、特に新規学卒者らの定着化を促す施策を関係団体と協議する。

立地適正化計画を問う

問 市は30年度から2力年で立地適正化計画策定をするが、これまで策定した各種計画との整合性をどう図ろうとしているのか。

答 各部署で策定されている計画との関連性を総合的検証にしながら、30年度は課題への分析調査、31年度に方針実現に向け協議する中で、整合性を図り、計画策定を進める。

他の質問・名寄市立総合病院、名寄市立大学の将来像について

生活困窮者への支援を



生活困窮者の支援制度周知を

公明 高橋伸典 議員

問 さまざまな困難の中で生活に困窮している人を包括的に支援していく制度の現状と今後の対策及び周知方法は。

答 自立相談支援事業の新規相談件数は、平成27年度は77件、28年度は59件、29年度は前年同数と見込まれる。相談内容は収入や債務など金銭関係が半数。支援計画に基づく支援は、27年度3件、28年度10件、29年度は現在のところ12件。29年度での支援終了は、就労による自立が2件、生活保護受給が1件、その他3件となっている。子どもの学習支援事業は、名寄市立大学と連携して学生ボランティアの確保や支援内容を協議しながら実施。対象は生活保護世帯や就学援助受給世帯などの児童・生徒とし、29年度は8月から計14回実施し、延べ15人が参加。今後は実施時期や時間、場所などを考慮し、

より参加しやすい環境を提供したい。各種支援制度の周知は、広報等で定期的に進める。命をつなぐ教育を

問 心停止から命を救うには、心肺蘇生・AEDの知識と技術を体系的に普及する必要があるが、小中学校での心肺蘇生教育は。

答 小中学校すべてにAEDを設置している。消防署と連携し、教職員対象の応急手当講習や、主に中学2年生を対象に心肺蘇生、AEDを含む救急救命講習を行っている。



毎年、多くの市民が転出・転入届を提出する市民課窓口

生活困窮者自立相談支援事業



生活困窮者自立支援事業の市民への周知促進を！

一般質問



住み良い街づくりを

名風会 野田三樹也 議員

除排雪のあり方について

問 今シーズンの降雪量は昨年よりも多いものの、ほぼ平年並みとみていたが、今年除排雪の状況は。

答 本年度の除排雪事業は、いかなる状況にも即座に対応できるように約2週間契約を早めて事業を開始した。今シーズンは通常の除排雪委託業務のほかに道路センター職員による直営班の作業により、機動力と機械力が上昇したことに伴い、交差点カット排雪等を数多く実施することができた。市民の安全安心な道路空間の確保や生活空間の快適度向上に努め、引き続き残る期間しっかりと除排雪事業の推進を図っていく。

定住促進について

問 現在においても就職や転勤、その他の理由による人口流出が続いているが現状と人口流出を防ぐための取り組みは。



昨年度より多くなった降雪量

答 本市における人口流出の現状としては、平成19年度から平成28年度までの10年間の転出数を平均すると1年あたり約1700人程度となっており、転入者との差し引きである社会減の平均は200人強の転出超過となっている。名寄市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、推進することで、将来に渡って自律的で持続的な地域社会を創生していくこととしている。



スポーツ振興とまちづくり

市政クラブ 塩田昌彦 議員

東京オリンピック意識の醸成

問 全国の小学生による東京オリンピック・パラリンピックのマスケット決定の投票に参加した子どもたちの意識の変化と今後の取り組みについて。

答 日本初の試みとして、東京2020大会マスケットを、全国の小学生による投票で決定しました。投票に参加した市内小学校では、遠い東京での開催だがオリンピック・パラリンピックへの興味の高まりやオリンピックに関わったという実感をもつことができたと感じている。今後、更なるスポーツ意識の醸成に繋げる取り組みを展開したい。

スピード感を持った支援策を

問 ものづくり補助金等の運用に係る中小企業の設備投資支援について。

答 国は中小企業の生産性向上のための設備投資を促すことを目的に、今国会に生産

性向上特別措置法案を提出した。ものづくり補助金の優先採択に必要な措置として、市町村が賦課する固定資産税の3年間免除や導入促進基本計画の策定などを要件としている。市内中小企業にとって大きな支援施策になると考えている。地域経済の活性化や中小企業の振興の観点からも実施に向けて検討を進めたい。

他の質問・農業行政の取り組み・中小企業振興基本条例の制定について



決定!
私たちが東京2020
大会マスコットです!

一般質問



除排雪について

市民連合・凜風会 奥村英俊 議員

問 排雪回数の増は市民の願い

「排雪回数を増やしてほしい」除雪後の間口除雪を行政として行ってほしい」との市民要望に道路センター直営の機械力を増強して交差点排雪、道路拡幅、2回目以降の排雪実施基準を設けて応える考えはないか。

答 シーズンは小型ロータリー車、凍結防止剤散布車、ダンプ車や除雪グレーダーの導入により機械力の増強を図ることができ昨年度よりも大幅に業務を拡張できたが、2回目の排雪作業を行うには現在の機械力の増強が必須であること、併せて高額な除雪機械の予算措置、オペレーターの増員配置が必要となることから現状では予算・人員共に生活道路の複数回排雪については難しいと判断している。また様々な状況を総合的に勘案して臨機応変に作業を行う必要があることから排雪等の統



いっそうの充実が求められる排雪作業

一的な詳細基準を設けることについても難しい状況である。

問 リハビリ教室の継続を

リハビリ教室は利用者から継続の強い要望があるが継続に向けて再考する考えは。答 継続に向けて検討を重ねてきたが、理学療法士や指導員の確保が困難となり、登録者の減少と介護保険で効果的なサービスを受けることが可能となつてきていることなどから、平成32年度を目前に終了となる。



スマホ依存から子どもを守る

日本共産党 川村幸栄 議員

問 子どものスマホ依存対策は

WHO（世界保健機構）は国際疾病分類に「ゲーム障害」を盛り込む方向にある。不登校や遅刻・早退、体調不良、睡眠障害による発達不全、言語能力の低下や成績の急降下等、脳の機能低下などがあげられている。青森市では健康問題を啓発するネットアドバイザーを養成する講習会を開いているが名寄市の対策は。

答 本市のアンケート調査から、自分専用の携帯電話やスマホなどの所有割合が小学生28%、中学生54%。2時間以内の使用が小6で66・7%、中3で82・8%。学校や地域・家庭と連携を図り、時間や場所など家庭や友達同士のルールを決めることなど望ましい生活習慣の定着に努める。問 ネット・スマホ依存から守るために、体を充分に動かすための遊び場が必要。特に

冬期間の確保の考えは。

答 冬のスポーツ体験プログラムを多数準備している。積極的な参加を促したい。

問 地方公務員法改正の影響は

働き方改革が議論され、裁量労働制や残業代ゼロ制度、無期転換ルールなど関心が高まっている。昨年の法改正で市の臨時・非常勤職員の待遇改善はされるのか。

答 制度設計などはこれからで、2020年4月からの制度開始に向けて、準備を進めたい。他の質問・おもてなしについて



非正規職員の7割が女性。格差をなくそう。

一般質問



農福連携の推進を

市政クラブ 山田典幸 議員

農福連携の可能性について

問 近年農業分野と福祉分野が連携した「農福連携」の取組みに関心が高まっている。本市としての今後の推進の可能性と考え方について伺う。

答 市内でも5つの福祉事業所などで取り組みが行われており、その取り組み状況と今後の農作業の受託などに関する意向や、対応可能な作業内容などについて調査・把握するとともに、農業者に対して障がい者等の雇用についての理解と普及を図り、その上で必要とする作業内容等についてニーズを把握する必要があると考えている。今後、国のマニュアルや他市町村の事例などを参考としながら、取り組みに係る調査・検討を進めて行きたいと考えている。

問 複数校合同部活動について

となり、生徒が希望する部活動を選択できない状況が発生しており、全道的にも複数校合同部活動を実施する学校が増加してきている。本市においての考え方を伺う。

答 編成の条件を満たし学校間の合意のもとで合同チームが編成されるなど、本市においても過去に実例もある。今後教育委員会としても、各中学校に対し可能な限り生徒の運動部活動への多様なニーズに因應してもらうよう、お願いをしていく。



「農業」と「福祉」の連携で地域をより元気に！

市民ニーズと政策のギャップ



加藤市政を振りかえって

市民連合・凜風会 熊谷吉正 議員

問 少子高齢化に対応する医療費無料化、除排雪、地域人材の育成、確保等、人、命に係わる政策が弱いとの批判がある。

答 地域産業を元気づけ、交流人口拡大等に取り組んできたが、指摘もあり理解を得るよう努力する。

問 公平公正なまちづくりについて、非常勤職員の採用は公募が原則であり公平公正を求める。

答 過去に専門資格等の人材確保で公募によらない運用もあったが、短期間や災害等を除き原則公募とする。

平和行政の推進のために

問 名寄駐屯地65周年行事で武装行進が予定される。安倍政権の憲法9条改悪と重なる。慎重な対応を求める。市民団体が編集した「女たちの戦争体験記」を活用し戦争の悲惨さを伝えるべきである。

駐屯地周年事業について

答 駐屯地周年事業については地域に貢献している駐屯地と地域住民との絆を深めるものと総合的に判断し関係団体からの要請に応える準備をする。悲惨な戦争を二度と繰り返さないよう語り継がなければならぬ。市民団体の「原爆の絵 名寄展」等も支援していく。

問 地域経済活性化に向けて今後の中小企業等の振興、人材確保の具体策を求めらる。

答 厳しい経済情勢を踏まえ建築、土木等多職種にわたる人材確保のため関係機関、団体等と連携しさらに取り組む。

他の質問

・公契約
条例、弥
生公園の
管理につ
いて



安心してなよるで暮らしたい

議会改革調査特別委員会

2年6カ月の議論終結

引き続き議会改革の歩みを

平成27年第3回定例会にお

いて設置された議会改革調査特別委員会(山田典幸委員長)は「市民に信頼される議会を目指して」を基本姿勢として掲げ、設置後26回の委員会を開催し、議論を深めてきました。

むこととしました。

「市民に開かれた議会運営と情報公開について」は、議会報告会は参加者との意見交換を主体として、全体的な報告会と町内会単位の報告会と年2回以上開催することとしました。また、各種団体や若年層等との意見交換会の開催や青少年に向けた情報発信を積極的に検討していくこととしました。

「行政への監視機能と政策提言能力の強化について」は、常任委員会の機能強化として、市政課題など年間のテーマを設定し、テーマに基づく情報収集や調査活動を行い、調査結果の集約・評価を政策提言に結び付ける委員会活動を行うこととしました。

「議会審議の活性化について」は、予算及び決算審査特別委員会における総括質疑を一問一答方式で行う方法も選択できるようにし、論点をより明確にした上で中身の濃い議論が展開されるよう取り組

「市民に開かれた議会運営と情報公開について」は、議会報告会は参加者との意見交換を主体として、全体的な報告会と町内会単位の報告会と年2回以上開催することとしました。また、各種団体や若年層等との意見交換会の開催や青少年に向けた情報発信を積極的に検討していくこととしました。

「情報公開について」は、予算及び決算審査特別委員会など議場で行う委員会についてインターネット同時中継、録画中継を行うこと、各委員会における行政視察報告をホームページで公開することなどに取り組みました。

「議会基本条例の評価と検証について」は、条項の構成に基本理念、基本方針、災害時の議会対応、議員政治倫理

などの追加が必要であるとともに、議決事項の定め、政務活動費の執行及び公開については改正が必要と確認しました。

次期改選時の議員定数については、山積する市政課題の解決に二元代表制の一翼を担う議会としての役割が強く求められていること、類似自治体との比較に基づく検証、市民アンケート調査の結果、各常任委員会6名体制を維持し、常任委員会の機能が十分に発揮できることなどを判断基準として、現行の18名とすることと決定しました。議員報酬については、次の世代が議員として活躍できる環境を作り出すという視点も重要であり、現状維持としつつも、現在の報酬が適正であるかどうかを検証する必要性について確認しました。

特別委員会設置から約2年半、議会改革議論を進めてまいりましたが、今後も議会改革の歩みを止めることなく、各寄市議会が真に市民に信頼される議会となるよう、引き続き議員一丸となり努力してまいります。

議員協議会

(平成30年2月26日)

2月26日本会議終了後に開催された議員協議会では、議案第9号寄市第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画(案)について説明を受けました。

平成27年に30・5%だった高齢化率は、平成32年に32・4%となり、平成37年には33・4%に達すると見込まれる。今後の認知症高齢者や一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯が増加していくことが見込まれる中、可能な限り住み慣れた地域で、能力に応じた自立した生活を営むことができ、医療、介護、介護予防、住まい及び日常生活の支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムを段階的に構築し、安心して健やかに暮らせるまちづくりを推進する。計画期間は平成30年度から32年度の3年間であり、高齢者福祉施策の推進に関わる内容を盛り込んでいるとの説明を受けて質疑を行いました。

議会報告会を開催します

名寄市議会では、市民の皆さんに対して議会としての説明責任を果たし、議会の政策活動への市民参加を進めることを目的として議会報告会を開催しています。従来は年1回だったものを昨年度から年2回(4月、10月)の開催といたしました。平成29年10月に開催した議会報告会以降の議会活動、議会改革調査特別委員会における協議結果(議員定数、議員報酬等)等について報告するとともに、市民の皆さんの議会に対するご意見を伺う意見交換の場としたいと思います。

下記の日程で開催いたします。どなたでもご参加いただけますので、ご都合のよい会場へお越し下さい。多くの皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

月 日	時 間	場 所
5月18日(金)	午後1時30分～	名寄市民文化センター(大会議室)
	午後6時30分～	ふうれん地域交流センター(3階会議室)
	午後6時30分～	名寄市総合福祉センター(多目的ホール)

平成29年度における行政視察の受入状況

道外等の市町村議会からの行政視察を受入していますので内容をお知らせいたします。

視察年月日	自治体名(議会名)	視 察 事 項	視察人数
平成29年4月12日	北海道帯広市	・名寄市立大学を活かした「まちづくり」について	3名
平成29年7月5日	山口県周南市	・ご当地グルメ推進について	3名
平成29年7月28日	徳島県徳島市	・名寄市民文化センター大ホール「EN RAY」整備事業について	1名
平成29年8月1日	大阪府池田市	・名寄市立大学の運営状況等について	1名
平成29年8月2日	香川県丸亀市	・名寄市駅前交流プラザ「よろーな」について	2名
平成29年8月30日	愛媛県今治市	・名寄市立大学について	7名
平成29年9月6日	山形県議会	・薬用植物の種苗の育成、栽培技術確立に向けた取り組みについて ・もち米のさらなる生産拡大とブランド化に向けた取り組みについて	11名
平成29年10月4日	愛知県清須市	・子育て支援事業について ・チャレンジデーの取り組みについて	11名
平成29年10月23日	北海道鹿追町	・移住及び定住推進の施策について ・「低炭素まちづくり」計画について	8名
平成29年11月20日	北海道深川市	・議会改革の推進について	8名

総務文教常任委員会活動報告

当委員会では2月15日に委員会を開催し所管事項の報告を受けました。

総務部企画課からは風連御料線の一部デマンド化に向けた実証運行を、12月1日から1月31日まで実施し利用者全体では、概ね2割増加した。総務課からは個人情報保護条例の一部改正について、個人情報定義の明確化及び個人情報に「個人識別符号」が含まれることが明確化される。



風連御料線の一部デマンド化に向けた実証運行を終え、分析と検証を進める

防災担当からは名寄市国民保護計画の変更と緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信の開始について、天塩川、名寄川が対象となる。風連地区地域振興担当からは風連地区集会施設の管理・運営について、平成30年度から町内会が管理運営することと合意し、名寄市が負担する経費と町内会が管理・運営する事項についてそれぞれ説明を受けました。

教育委員会からは名寄市立小中学校整備計画の概要について計画期間は名寄市総合計画（第2次）と連動させ平成30年度から38年度までの9年間とし、パブリックコメントを経て5月上旬に決定する。平成30年度就学援助（新入学児童生徒学用品費）手続きの改正では新入学児童生徒学用品は3月中旬に支給できるようにする。

名寄市立大学からは地元定着化推進事業について、平成29年度は8人の実績があった。

地方創生推進交付金事業「名寄大学を活用した地域ケア力推進事業」の平成29年度実績について、施設整備では新棟建設工事が2月28日に引き渡しとなること等について報告を受けました。また、平成30年度より呼称を変更し、新館を1号館、恵陵館を2号館、本館を3号館。29年度完成した建物を図書館。30年度4月から開館する新棟を5号館とするとの説明を受けました。



1階には市民も利用できる食堂と売店を配置（名寄市立大学5号館）

議会スナツプ ふうれん冬まつり

第34回ふうれん冬まつりが2月17・18日に開催されました。今年も議員有志により雪像づくりを行いました。

毎年、その年の干支をメインにしたすべり台を作っています。干支の動物等に見てもらえるかどうか苦戦するところとす。議員同士で日程の調整を行い、慣れない作業ではありますが、すべり台を楽しみにしてくれている子どもたちの喜ぶ笑顔を思い浮かべながら作業を進めました。

冬まつり当日は、たくさん子どもたちの笑顔と歓声があふれ、作業の疲れや苦労も吹き飛んでしまいました。



青空のもと、盛況だったふうれん冬まつり

市民福祉常任委員会活動報告

当委員会では1月22日、2月20日、3月5日、3月16日に委員会を開催しました。

市民部からは新年度から運営主体が現行の名寄市から北海道に移管される国民健康保険の税率を据え置く考えについて、本算定の結果、市が北海道に収める納付金額として国保税と国、道からの交付税合わせ約7億6000万円を納付する場合、現行税率では約7700万円不足するので国保支払準備金を取り崩すが次年度以降の税率が課題と説明がありました。また、名寄



健康で安心して市民生活を送ることができる国民健康保険制度を！

市国民健康保険条例の一部改正等の説明がありました。

健康福祉部からは、1月から社会福祉協議会に委託した成年後見センター

の制度や業務内容について新年度からの第5期名寄市障がい福祉実施計画等について名寄市第7期高齢者保健医療福祉計画・介護保険事業計画について 介護保険法の一部改正等について説明がありました。とりわけ、第1回定例会で当委員会に付託された新年度から3年間に関連する名寄市介護保険条例の一部改正案の審議の経過と結果の概要は、計画期間3年間の標準給付費と地域支援事業費の見込み総額は約7億2400万円、保険料の大幅値上げ抑制のため準備基金活用を前提にした保険料月額が5225円と説明を受け審議を行いました



た。審議では各委員から、収納率、準備基金の活用、保険料上昇の原因、認知症グループ

市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくりを目指して

プホーム新設、新たな居宅サービス開始、年金生活者の生活不安、一般会計からの繰り入れに関する可否、高齢化や利用増による第8期計画への不安、国への要望等について質疑を行いました。採決の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。

市立病院からは、損益計算書推計値（4月12月）で前年比1800万円減の3億6700万円赤字計上、次年度は電子カルテシステムの更新等を見込んでいます。また、不具合が生じているテレビ、冷蔵庫、洗濯機等を入れ替え予定との報告がありました。

議員研修会

(1月19日)

今年の新年研修会は、寒締め法蓮草の栽培を行っている神田勇一郎さんに「農業の力で名寄を元気にする」と題して講演をいただきました。神田さんのトレードマークとなっている当日のタンクトップは、名寄小からのプレゼントで、ハウレンソウと星のアップリケが施してありました。神田さんは祖父の代から東風連で就農され、地道な土地改良を行いながら、もち米、ピーマン、メロン、ハウスアスパラ、赤大根そして寒締め法蓮草を栽培されています。「なよろ星空雪見法蓮草」というように作物への愛情があふれる名前で神田さんの熱意が伝わってきました。「もっと仲間を増やしたい」との意欲に名寄の元気を期待しました。



名寄の農業を活性化させる。熱く語る講師の神田さん

経済建設常任委員会活動報告

1月18日に開催した委員会では所管の事業について経済部から平成30年4月から5年間の第3次食育推進計画の策定について、道立林業大学校の上川北部地域への誘致について、コメリホームセンターの大規模小売店舗届け出による縦覧について、農作物の出荷状況について。また、ピヤシリスキー場第4口ロマンスリフトの運休で入込み人数について影響はなかったが、今後の点検整備のあり方について検討するとの報告を受けました。建設水道部から名寄市住



「健全な食生活」をかかげる食育の定義

宅マスタープランについて作業部会等の意見を踏まえて2月中にはパブリックコメントを行う。平成29年度除排雪事業は12月12日から幹線道路、1月4日から生活道路を開始。今年度は機械力と道路センター直営班の機動力向上が図られているとの報告がありました。

2月1日の委員会では経済部から台湾交流について名寄市・台湾交流実行委員会を解散し日台親善協会に一本化を進める。道が30年4月から計画する上川北部森林計画と同時期で名寄市森林整備計画の樹立に向け準備を進める。建設水道部から水道事業の設置等に関する条例の一部改正について、栄町55団地放火事件に関する訴訟の和解が成立した旨の報告を受けました。また、除排雪についての意見交換を行いました。

2月16日の委員会では経済部から名寄市企業立地促進条例の一部改正、名寄市肉牛繁



豊かな自然がつくる名寄のお米

殖センター条例の廃止について説明を受けた。建設水道部から除排雪事業の進捗状況と旭栄区町内会がレンタル&ゴー事業の実施。名寄市住宅管理条例の一部改正、また、名寄市住宅マスタープラン策定委員会第4回の内容について、名寄市水道事業経営戦略の策定について報告を受けています。なおこの委員会でも除排雪について市民意見等も加え意見交換を行いました。

3月9日、なよろ温泉サンピラーを会場とし日進地区の再整備計画に係わって、行政視察で得た温浴施設の運営に関し、施設の従業員、担当課と情報交換・意見交換を行いました。

議会運営委員会活動報告

平成30年第1回定例会の日程及び議事運営等を協議するため、2月21日、3月13日及び26日に委員会を開催しました。2月21日の委員会では、会期を2月26日から3月27日までの30日間とすること、一般質問は3月13日に5名、14日に5名、15日に4名、合計14名の議員が登壇することを確認しました。上程議案は27件、報告2件で、議案第3号名寄市介護保険条例の一部改正についてを市民福祉常任委員会に付託、平成30年度名寄市一般会計予算の他、7特別会計予算と2企業会計予算を、全議員で構成する予算審査特別委員会に付託し審査することとしました。3月26日の委員会では、定例会最終日の議事日程等について協議を行い、7件の追加議案の審議の他、市民福祉常任委員会、予算審査特別委員会及び議会改革調査特別委員会の委員長報告を行い閉会とすることを確認しました。

☆ き ぽ う ☆



カラオケしよう

名寄市風連町字豊里 庄野 修しょうの おさむ

みなさん最近カラオケで歌っていますか。自分は風連カラオケ同好会に入会して15年になりました。もともと歌うことは好きでしたが、人前に出て歌うのははずかしいのでイヤだったのですが、仕方なく文化祭や地域で行われるカラオケ大会などに出るようになって、回数を重ねる事で緊張する事にもだいが慣れてきました。風連では先日行われた春の文教まつりと秋の文化祭に出演させてもらっています。

歌うことだけでなく踊りや振り付けを考えたり、曲に合わせて衣装を作ったりとエスカレートして、最近は梅沢富美男の「夢芝居」を着物を着て歌ったりしています。(顔写真はその時の写真です。)皆さんもぜひ一緒にカラオケしませんか。



少年団に感謝

名寄市西2条南2丁目 椎木 涼子しいき りょうこ

うちには、4月から高校2年生、中学生、小学生になる子どもがいます。高2の長男と中1の長女が巡り合ったスポーツはソフトテニスでした。長男が入団した時は、昼の部が立ち上がったばかりで団員が5名ほどでした。冬は北体育館で練習。夏は市営コートでした。長女が入団する頃には北体育館の使用ができなくなり、指導者は練習場所を確保するのが大変だったと思います。嫌な顔一つせず子どもたちのために練習場所を見つけてきてくれた先生方には感謝の言葉しかありません。冬の練習場所確保と毎日の練習のおかげで冬の全国大会へ出場できる団員も増えています。

3月いっぱいまで長女も昼の部を卒業しますが長男も長女も、この少年団に巡り合えたおかげで、これからもソフトテニスを続けていくようです。

表紙の写真は「名寄ピヤシリソフトテニス少年団」です

名寄ピヤシリソフトテニス少年団は、28名の団員が昼の部と夜の部に分かれて日々練習に励んでいます。

先生方の熱心な指導や父母の会などたくさんの方に支えられていることに感謝し、多くの仲間とともにソフトテニスの楽しさや奥深さを感じながら、これからも元気いっぱい活動していきます。



ソフトテニスを通じて仲間との連帯や協調性を育みます

編集後記

2月26日開会した今定例会は市長選挙の年であるため平成30年度の骨格予算案や平年の1・4倍を超える降雪による除排雪費の追加補正予算等を審議し、3月27日に閉会しました。平昌で開催された冬季オリンピック・パラリンピックでは、多くの日本人選手がメダルを獲得し、私たちに感動と希望を与えてくれました。本市では昨年に引き続き、全国より約580人の選手が参加した、JOCジュニアオリンピックカップが開催され、将来の五輪選手の発掘・育成に大きな期待を持ちました。本市の重点プロジェクト計画の冬季スポーツ拠点化事業の弾みなると思います。今号は名寄産業高等学校の生徒さんとの意見交換を特集しました。インタビュアーでは、今の高校生は自分たちの高校生の頃と比べて、政治にもしっかりと関心を持ち、現実を見つめ、将来への憧れもきちんと持っていると感じました。(孝)

